

全国和牛能力共進会北海道大会※を契機とした地域振興について

やまはた りゅうじ

山端 隆治

(政清会)



Q 本町の和牛ブランドや地域の農畜産物のPR、販路拡大に向けて、幕別町和牛生産改良組合及び忠類和牛改良組合と連携した町の取組や計画は。

A 地元産和牛の消費拡大と地産地消推進のため、生産者やJAと連携しPR活動を展開している。産業まつり等での対面販売や、去年は全国和牛能力共進会(全共)のパネル展を実施した。本年度は共進会参加や研修で技術向上を図り、イベントを通じ全共開催に向けた機運向上に努める。

Q 経済波及効果を高める支援の考えは。また、本町の魅力の発信や地域活性化につなげる考えは。

A 道内初の農業一大イベントであり、本町の魅力発信と経済波及効果を高める機会。約38万人の来場や大きな経済効果が見込まれる。町は、観光物産協会と連携し、特産品販売や町内施設への誘客を進める。地域おこし協力隊も、全共を機に、パークゴルフやアイヌ文化など地域の魅力を全国に発信し、地域活性化を図る。関係機関と連携し、十勝一体でPRに取り組む。



◀「和ぎゅりー」(北海道大会マスコットキャラクター)



▲「全共」について(幕別町HP)

※全国和牛能力共進会北海道大会…和牛の能力向上と改良成果を競う大会。5年ごとに開催され、来年は初の北海道開催となる。8月26日～30日、音更町で種牛の部、帯広市で肉牛の部を開催する。

防災意識の向上について

Q 迅速な避難を促進するために、町としての具体的な取組状況と防災体制の整備状況は。

A 幕別町では、防災訓練計画に基づき地域防災訓練を実施し、自主的な防災活動を促進。防災マネージャーを任用し、自主防災組織の組織化(組織率46.0%)と地域防災力向上に注力。個別避難計画の作成、防災行政無線等による迅速な情報発信も整備。地域防災計画に基づき、備蓄品や避難所の確保、関係機関との防災協定締結を進める。防災フェア開催や出前講座で住民の防災意識向上を図る。

増える負担、国民健康保険の今後 基金の活用と傷病手当の創設を

あら たかよし

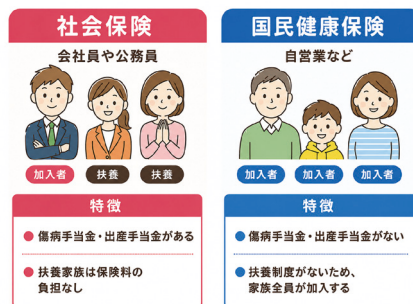
荒 貴賀

(日本共産党幕別町議員団)



Q 国保の都道府県化に伴い、全道で保険税率の統一が令和12年までに行われる。幕別町でも被保険者の保険税率が毎年引き上がる試算が示された。一方で国保基金が2億5,000万円になる試算もされている。育児休業給付金や傷病手当金の給付を行う考えは。

A 出産手当金や傷病手当金は国保で任意給付、育児休業給付金は雇用保険が根拠で国保では不相当と捉えている。国は所得補償額算出や財源、公平性から国保での制度化に慎重な姿勢。町独自の創設は、税率引き上げや一般会計からの繰り入れが必要で、不公平や他住民への負担が生じるため、現状考えていない。



▲「社会保険」と「国民健康保険」の特徴

急がれる町内事業者支援

Q ナフサ不足と物価高騰から品不足と資材の高騰が続く、事業の継続が困難になっている。町の支援の考えは。

A ナフサ不足と物価高騰による事業継続困難に対し、町は「幕別町中小企業融資に関する条例」に基づく融資制度で支援。保証料全額と利息の一部を助成している。国がエネルギー価格高騰対策を進めているため、町独自の給付金は現段階で考えていない。商工会等と連携し、国や道の動向を注視しつつ、町の役割を見極める。税の徴収猶予や減免は、限定的な要件に基づき個別の状況に応じて対応していく。



▲「中小企業融資」について(幕別町HP)